



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン・イラク：イラク首相のイラン訪問

(8月8-9日付イラン現地報道)

1. 8月8-9日、イラン側の招待によりマーリキー・イラク首相がイランを訪問し、アフマディネジャード大統領（8日）、ダーヴーディ第一副大統領（8及び9日）、ラリジャーニ国家安全保障最高評議会書記（8日）と会談したほか、8日には1月にエルビルで拘束された5名のイラン人外交官の家族と面談した。今回の訪問は、首相としては昨年9月以来2回目の訪問であり、前回はハメネイ最高指導者と会談したが、報道を見る限り、今回は最高指導者とは会談していない模様（注：イラン国営TVによれば、9日にハメネイ最高指導者と会談した）。
2. 要人との会談
 - (1) アフマディネジャード大統領の発言要旨
イランとイラクは地域での平和と安全の確立に責任を持っている。現在の地域情勢、特にイラク情勢は極めて機微であり、地域の将来はイラク人の勝利に懸かっている。イラク政府は、治安の確保及び国民にとっての未来作りの為に聖戦を行ってきており、今日、イラク政府及び国民の進む道は正しいことが明らかとなっている。何故ならば、腐敗した者たちが、それに反対しているからである。自らの栄光を敵に売り、外国の手先となることを選んだ者たちこそがイラク政府・国民に反対している。イラクの栄光を維持し、独立した政権を打ち立てようとする努力は、全てのイラク人にとって最善の措置である。
 - (2) マーリキー・イラク首相の発言要旨
イラク問題、特に治安の確保及びテロとの戦いにおけるイランの前向き且つ建設的な立場に感謝する。テロリストは、我々の政治・経済・文化分野での潜在力を押さえつけようとしているが、成功することはない。今日はイラン・イラク及び地域諸国のテロとの戦いの時代であり、イラクにおける殺害事件が止む日が一刻も早く到来することを希望する。
 - (3) ダーヴーディ第一副大統領の発言
 - A. イランはイラクの復興に協力する用意がある。前体制及び占領期の荒廃からの復興の加速は、イラク国民の将来への希望を増大させるものである。イランの専門家や投資家は、石油精製施設、発電所、石油化学施設及び病院の建設、上下水道整備、電力供給、通信網整備、建築、産業団地創設、見本市開催、科学・教育協力等、多くの分野で事業参加が可能である。
 - B. イラクへの送電プロジェクトは現在進展しており、イランはカルバラやナジャフでの送電網整備を実施可能である。又、我々は、マーリキー首相の訪問で、イラン企業が入札を通じてイラクでの今後のプロジェクトに参画できるよう合意した。更に、我々は冬季のイラクへの燃料供給及びカルバラでの石油精製施設建設の用意のあることを表明した。近く予定されているハマーン石油相のイラク訪問時に、アバダン・バスラ間石油パイプライン建設契約が調印されることになる。同契約に基づき、イラクはイランに原油を輸出し、イランはイラクに石油製品を輸出する。